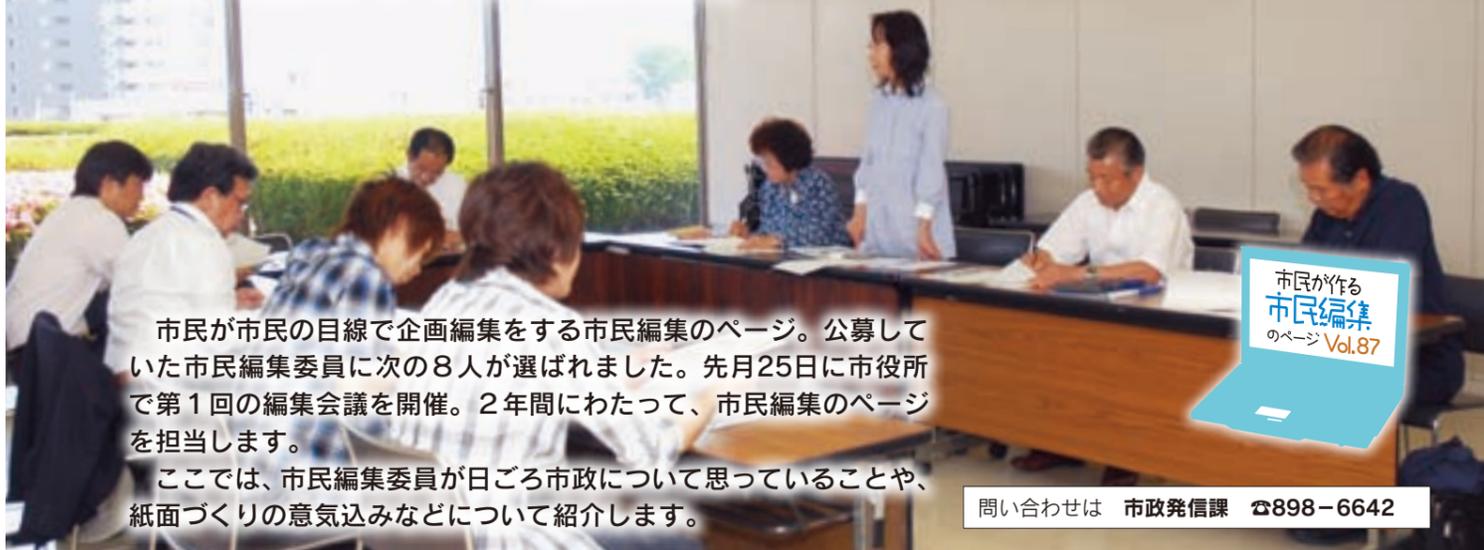


# 市民編集委員 8人が決定

## 楽しく分かりやすく伝えます



市民が市民の目線で企画編集をする市民編集のページ。公募していた市民編集委員に次の8人が選ばれました。先月25日に市役所で第1回の編集会議を開催。2年間にわたって、市民編集のページを担当します。

ここでは、市民編集委員が日ごろ市政について思っていることや、紙面づくりの意気込みなどについて紹介します。

問い合わせは 市政発信課 ☎898-6642

### 子どもの視点と高齢者の視点で

加藤 純子(文京町三丁目・78歳)



週に何日かボランティアで子どもたちと付き合っているからでしょうか、子どもの視点で、ものを見る機会が多いです。

前橋プラザ元気21にあることも図書館は蔵書数も豊富で素晴らしい施設ですね。自分の子育ての際にはなかった、この良き環境の中で、絵本を読み聞かせる親子が増えてほしいなと思っています。

前橋に住んでいても、未知の地域や施設があります。今回はそんな施設に興味を持ついい機会だと思っています。子どもの視点だけでなく、高齢者の視点も忘れずに、自分のできることの切り口で取り組みたいと思っています。

### 前橋の魅力を発信するために

杉山 市郎(関根町・70歳)



前橋の魅力を発信するためには、市政に求めること以上に、市民力・地域力によるさまざまなアイデアが求められていると思います。

来年度、群馬県は観光キャンペーン「ステイネーションキャンペン」の地域に指定されています。前橋市は駅から自然エリアへの「つながり」を作っていくことが重要です。駅を観光・物産エリア、その周辺を文化芸術活動の拠点エリアとし、交通を充実させまちなかへ。さらに、憩いと学びのエリアであるまちなかからは、まちなかハイキングやサイクリングなどで、自然たっぷりのエリアへと足を運べるようになればと思います。

### 高齢を楽しく過ごせるように

川上 靖二(川曲町・70歳)



近年、高齢者の孤立死や悪質商法、振り込め詐欺などの被害が目につきます。

わたしたちが育った戦後は、隣近所の付き合いが盛んで、子どもは日が暮れるまで外で遊んだ時代でした。最近是个々の生活が主となる傾向にあります。世の中は高齢化の時代。各地域でふれあいサロンやいきいきサロンなどの取り組みが開催されています。これは「知り合える」「いろいろなお話がわかる」「助け合える」ことができるなど、介護予防につながる取り組みです。こうした取り組みを利用し、高齢を上手く、楽しく過ごすことがこれからの課題だと思っています。

### 赤城山の自然を生かして

手塚 正一(岩神町三丁目・67歳)



昨年5月に富士見村との合併により、赤城山が前橋市に繰り込まれました。中心市街地の活性化や交通行政の再構築などの課題を抱える前橋市ですが、観光資源に乏しかった市内に赤城の山々が繰り込まれたのは大きなチャンスだと思います。

ハイキングや釣りなどを体験できる自然豊かな赤城山。これを機会に、市民や観光客が大自然と接することができる施設を整備を進めることも必要ではないでしょうか。

編集という作業は初めての経験で不安もありますが、できるだけ市民の目線で分かりやすく前橋を紹介できればと思っています。

### 市民の息遣いを伝えたい

吉田 法子(富士見町原之郷・54歳)



広報まえばしに市民編集委員制度が導入されて丸7年。昨春に合併した富士見地区在住の1人として、昨年度に続き企画編集に携わらせていただくことになりました。

県下初の中核市となった前橋市。行政をはじめ各地区・各分野で活動している人たちのさまざまな取り組み、そして「市民の息遣い」をレポートしたいと考えています。

時代の風を受けながら、さまざまな立場で今を生きている人たちの活動や思いを紹介し、そのことが市民一人一人のよりよい日々や明日につながる。そんな記事を書いていけるよう、努力を重ねていきたいと思っています。

### 分野を組み合わせた相乗効果を

古田島 俊憲(龍蔵寺町・44歳)



前橋市は医療制度や各種サービスが充実していて、非常に住みやすく快適な暮らしができる環境にあります。この前橋市を、今以上に市外、県外に自慢できるように、さらにレベルアップしてほしいと思っています。前橋市にあるサスパ草津やシネマ前橋、赤城山といった魅力的な資源。そういったスポーツや文化、自然環境、観光など、それぞれの自慢できる部分を組み合わせる相乗効果を発揮できるとよいのではないのでしょうか。

これらの特徴や魅力が合わさることで、自慢できる前橋市になることはもちろん、市民であることに、より誇りを持つことができると思います。

### 安全・安心・快適性を可能とするために

山田 大貴(国領町三丁目・23歳)



大学院で、地震災害に対応する構造物に関する研究を行う建設工学を専攻しています。そこで地方自治体の防災計画などを支援する技術を学んでいます。

今回、市民編集に携わるに当たっては、こうした視点を生かしていきたいと思っています。そして、市民の皆さんの地震災害に対する不安や意見が反映された、更に安心して暮らせる前橋市のまちづくりにつながってほしいと思います。

また、自然環境を保全し共生していく取り組みなどについても興味があります。わたしたちが住む、緑豊かな前橋市の発展に貢献できるような記事が書けたらと思っています。

### 新しく発見した前橋を伝えたい

高橋 大樹(駒形町・23歳)



現在、グローバル化が進んでいます。そんな中、前橋市の良いところや他の地域にアピールできる所を、市民の皆さんが理解し、守って、宣伝していくことが、これからの将来には大切なことだと思います。

この市民編集のページを通して、そんな、前橋の良いところを伝えていく。さらに、今まで気付かなかった、新しく発見した良いところなどを市民の皆さんに伝えていきたいと思っています。また、季節ごとの行事や催し物などを宣伝し、参加していただくことで、市民と行政が協力し合っより良いまちづくりができたら良いと思います。